2021 SUMMER

ダルニー通信

vol. 88

特集 コロナ禍における支援対象国の教育現場

4～5p 自粛生活を体験したラオスの子どもたち。今の願いは？
8～9p「感染に気をつけながら学校に通っています」タイ

3p…カンボジアの学校にトイレができました
6p…ジン・ゾーゾー・マウン氏（ミャンマー事業所新所長）からのメッセージ
7p… 連載❶ メコン５ヵ国現地スタッフ紹介
10p… 新連載 遺贈寄付について
11p… 連載❷ 今は昔「民際センター物語」

新型コロナが
教育に及ぼす影響について

新型コロナウイルス感染症の拡大は、移動制限などによる経済の落ち込みを始め、人々の行動や社会構造をも変化させました。このような過去に例を見ない状況がメコン5ヶ国の教育現場や各国事業所、そして民際センターにも様々な影響を与えています。支援地域における教育環境を振り返りながら、今、それらの変化にどう向き合うべきか、民際センターのあるべき姿を考えました。

本格的に世界各国が教育格差是正に向けて努力を開始したのが、2000年のMDGsのEFA（Education For All：万人のための教育）。まさに教育政策の転換期だったといえるでしょう。国際化とともに農村と都市の教育格差や所得格差の是正は国の発展に欠かせません。国の発展には人口の多数を占める農村の子どもたちの教育が大事で、愛国心を育み良き国民を育てることが要（かなめ）となり、識字率の向上に向けて、初等教育の拡充に力を入れ、最終年度の2015年迄には、就学率も上がり一定の成果を上げげたと考えています。2015年には、2030年までのSDGsのQE（Quality Education：質の高い教育をみんなに）が施行され、その目標に向かって邁進するのみと考えていました。

しかし、コロナ時代といえる現在、国内外の教育格差は、残念ながら異常なほど広がってしまったように見受けられます。ネット環境が存在し、一早くオンライン授業を取り入れ、工夫を凝らした授業を実施した国・地域の先生方の経験の蓄積は計り知れないものがあります。一方、学校の授業を一定期間中止、または学期ごと休校した国・地域と比べると、直ぐには教育格差は現れないと思われますが、実質的に授業を再開できなかった分はマイナス1、オンラインで授業を実施した分はプラス1、その格差は2と言えるかもしれません。コロナ禍の中でオンライン授業、ITを駆使した教育は、より一層普及することは間違いありません。教育を通した「貧困削減とICT」に民際センターはどのように貢献できるのかが、これからの課題です。全ての支援対象学校とEDFグループはオンラインでつながる体制整備が望まれます。今後、コロナを契機として、オンラインで多くの世界の人々がつながることが可能なことを体験し、確認しました。コロナは一国で解決できない地球規模の課題、また地球温暖化、自然災害も同様に国では解決できない人類の問題だと世界全体が感じていることでしょう。現在は、「地球益」を訴求する人々がつながることが可能な時代。地球益教育は各国の教育省の教育政策に委ねられるのではなく、志・思いを同じくする地球上の個人や市民団体と連携しながら運動を進めることが大事だと考えます。民際センターはその魁（さきがけ）としての役割を果たせればと思うばかりです。

公益財団法人　民際センター
秋尾 晃正

トイレ建設プロジェクト

カンボジアの学校にトイレができました

トイレの前で撮影

カンボジアの学校におけるトイレの問題を解決しようと始まったトイレ建設プロジェクト。先日、カンポンチュナン県チェ・シム・カンポントララーチ中学校・高等学校に第一棟目が完成しました。この学校には、同じ敷地内に生徒1,416人（うち女子生徒764人）が在籍しますが、設備が古く不衛生なトイレが6つしかなく、そこには手洗い場も浄水槽もありませんでしたが、この度、皆様のご支援により着工から4カ月を経て、校内の一画に、女子用3つ、男子用2つの、タワー型大型浄水槽を完備した新しいトイレが完成しました。

新型コロナウイルス感染を懸念し、完成後しばらくは大勢の人が集まる機会を避けなければなりませんでしたが、2021年1月、教育委員会の方、生徒や先生たちが出席して、竣工式が行われました。当日は、出席者はマスクを着け、お互いの距離をとりながら感染予防につとめました。この式で先生は、「このように素晴らしいトイレをご寄付いただき心より御礼申し上げます。トイレは、学校に、そして生徒たちにとって非常に重要です。新しいトイレができたことで子どもたちの環境は改善し、安心して毎日学校に通うことができます。この度ご支援いただきました方々に心より御礼申し上げます。遠いカンボジアから、皆様のご健康とご多幸をお祈りしています。」とあいさつし、学校から支援者の方々に感謝状が贈られました。カンボジアと日本の国旗を持った子どもたちは、新しくできたトイレの前で「私たちの学校にトイレをご寄付いただきありがとうございます。今までの学校のトイレは大変古く使うことさえためらわれました。でも、きれいなトイレができたので安心して学校に通うことができ、勉強にも集中することができます。ご寄付いただいた方々に心から御礼申し上げるとともに皆様とご家族のご健康とご多幸をお祈りいたします。」と感謝の気持ちを伝えました。

カンボジアの地方の学校では、トイレの問題を抱える学校がまだたくさんあります。トイレ建設にご興味のある方は、是非民際センターまでお問い合わせください。皆様の温かいご支援をよろしくお願いいたします。

贈呈式の様子

自粛生活を体験したラオスの子どもたち。今の願いは？

新型コロナウイルスの感染者数がメコン5ヵ国の中でも少なかったラオスですが、子どもたちの生活にも確かに変化がありました。大好きな学校が一時閉鎖され、村から出ることもできなくなり、出稼ぎに行っていた親が仕事を失ったり、家での自粛生活を余儀なくされました。

今回はラオス中部のカムアン県で、ダルニー奨学金支援を受けている中学４年生（最終学年）2人と、ダルニー奨学金支援を希望している小学5年生（最終学年）2人の生徒の生活と彼らの今の願いをご紹介します。

生徒たちが明るい未来を描けるよう、学校に通い続けることができるように、私たち民際センターは全力でサポートしていきます。

中学校最終学年の奨学生 ブアラ・リングナンヤくん

16歳のブアラ・リングナンヤくんは、カムアン県ターケーク郡ポンデ中学校の4年生。彼は山梨英和中学校・高等学校 様より支援を受けている奨学生の一人です。ターケーク市から16kmほど離れたポンデ村に生まれ、農業従事者の両親と3人の兄弟と暮らす末っ子です。学校に行く前に、家の掃除や、畑仕事と家畜の世話をします。新型コロナウイルスの影響で、学校は閉鎖され、家から出ることができませんでしたが、副業として魚の網を作る両親を手伝いながら、勉強をしていました。

「学校が大好きで、好きな科目は国語。放課後にセパタクローをするのが楽しみです。卒業後は地元の高校に通うことができればと願っています。」

中学校最終学年の奨学生 カムパイ・ケオパンヤくん

パイと呼ばれる14歳のカムパイ・ケオパンヤくん。カムアン県ターケーク郡ポンデ中学校の4年生です。彼も山梨英和中学校・高等学校　様より支援を受けている奨学生の一人です。ターケーク市から16kmほど離れたポンデ村に生まれ、農業従事者の両親と3人の兄弟と暮らす長男です。

村の主な産業は農業と漁業ですが、収入は天候に大きく左右されます。洪水や干ばつが起これば、生活は困窮します。仕事を他に探そうと思っても、村には仕事がなく、多くの村人は近くの都市かタイまで出稼ぎに行きます。

「好きな科目は数学で、学校に行くことが大好きです。放課後に友だちと一緒にサッカーをすることが楽しみの一つです。卒業後は、地元の高校に通いたいです。新型コロナウイルスの影響で、家族以外の人とは会うことができず、寂しい時を過ごしましたが、両親の手伝いと勉強をして過ごしていました。」

中学に進学希望の小学生
キャオ・オーハムさん

14歳のキャオ・オーハムさん。彼女はカムアン県ターケーク郡ポンデ小学校の５年生です。ターケーク市から25kmほど離れたナハイキア村に生まれ、両親と４人の兄弟と暮らしています。両親は農業従事者で、彼女は4番目の子どもです。
ナハイキア村の主な産業は農業と畜産です。収入は、天候に大きく左右され、干ばつや洪水が起これば、生活は苦しくなります。そのため多くの村人は村を離れ、大きな都市に出稼ぎに行きます。彼女の父親はロックダウン後、仕事を失い収入がなくなりました。そのため、彼女は食糧を確保するために家族と森にカエルやタケノコを捕りに行かなければなりませんでした。

「学校は楽しく、好きな科目は算数です。放課後に友だちとサッカーをするのが好きです。卒業したら、地元の中学校に進学したいので、奨学金を受けることができればと願っています。」

中学に進学希望の小学生
ヴィ・シソウフォンさん

14歳のヴィ・シソウフォンさん。彼女はカムアン県ターケーク郡ポンデ小学校の５年生です。彼女はターケーク市から25kmほど離れたナハイキア村に生まれ、両親と４人の兄弟と暮らしています。両親は農業をしており、彼女は3番目の子どもです。
学校に行く前に食器を洗い、掃除をするのが日課です。他の兄弟が料理をし、家畜の餌やりをします。お昼ご飯は学校と家が近いので、たいてい家に戻って食べています。彼女の父も新型コロナウイルスの影響で、仕事を失い収入がなくなりました。そのため、彼女も森に出かけ食糧を得ていました。また、自粛期間は両親のお手伝いと宿題に多くの時間を費やしました。

「学校で好きな科目は社会です。放課後に友だちとサッカーをするのが好きです。卒業したら、地元の中学校に通いたいです。家庭が貧しく家族の負担を減らしたいので、奨学金を受けることができればと願っています。」

＊年齢と学年にばらつきがあるのは、経済的に恵まれず、進学、就学できない期間があり、その間に年齢差ができてしまうなどの理由があるためです。

ミャンマー事業所新所長からのメッセージ

EDF-Myanmar（ミャンマー事業所）は、2020年12月にミャンマー連邦共和国・教育省の認定を受け、認定国際協力団体（*iNGO）となりました。専務理事に就任しましたジン・ゾーゾー・マウンを今回は皆様にご紹介します。

日本の支援者の皆様、2012年のEDF-Myanmar設立以来、ミャンマーの子どもたちへの教育支援、誠にありがとうございます。おかげさまで、これまで4,316名の子どもたちが学校へ通うことができました。子どもたちに成り代わり、そして職員一同心より御礼申し上げます。

私はEDF-Myanmarの専務理事を務めますジン・ゾーゾー・マウンと申します。1981年ヤンゴン生まれです。2004年に日本へ留学し約10年間日本で会社員として働いていました。2015年にミャンマーに帰国しYellowLink社を立ち上げ、ミャンマー人材紹介サービス、翻訳通訳サービス事業を行っていました。2019年に民際センターの理事である後藤さんのご紹介により、創設者の秋尾理事長と出会いEDF-Myanmarの*iNGO認定取得と支援活動の拡大を命じられ専務理事に任命されました。そしてこの度、正式にミャンマー連邦共和国・教育省の認定を受け、認定国際協力団体（*iNGO）となりましたことをご報告いたします。

ミャンマーは東南アジアの国で東にタイ、西にインド、北に中国というアジアの大国に隣接しています。主要民族８族と、その他少数民族135と多民族の国家であります。第２次世界大戦中1942〜45年まで日本に統治されたこともあり、日本軍の遺跡も多く残ります。1948年にイギリスから独立しましたが、その後内戦が続き、長期にわたる軍事政権、国際社会の経済制裁により国内経済状況が悪く貧困国でありました。2010年に民主化され国際社会から多くの支援をいただきました。日本からもミャンマーのインフラ整備事業、教育事業などにJICAを始め多くの民間団体から支援をいただきました。

民主化後急速に発展したミャンマーですが、主要都市と地方の貧富の差はどんどん広がっています。経済都市であるヤンゴン市は高級マンション、ホテル、ショッピングモールなどが多くあり、一見豊かな暮らしのように見えますが、ヤンゴン市内から車で一時間も走れば雰囲気は一変し田園風景が見えてきます。ミャンマーでは、まだまだ多くの子どもたちが奨学金を必要としています。

iNGOの認定取得を機に現在の支援活動地域だけでなく、本当に支援がなければ学校に通えない、勉強が出来ない地域の子どもたちの支援活動を始めています。まず初めに、2021-22年度に支援を決め、準備を進めているのがチン州です。チン州はミャンマーの西側にあり、インドとの国境沿いにあります。チン州は標高が高い地形なので交通インフラ整備も遅れ隔離されたような環境になっています。貧困家庭が多く、就学期の子どもたちも教育に必要な資金がなく勉強意欲があっても、両親の農業を手伝うことを余儀なくされている場合もあります。これからのミャンマーの未来を担う子どもたちが十分な教育を享受することができれば、ミャンマーはさらなる経済発展を遂げることができると信じております。

日本の皆様、どうかこれからもミャンマーの子どもたちへのご支援を、中学に通えるチャンスを与えてくださいますよう、お願いいたします。EDF-Myanmarも私を含めより一層の努力をしてまいります。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

*iNGO: International Non-Government Organization

本記事は 2021 年 2 月の軍事クーデター前に記載しました。

連載

メコン５ヵ国 現地スタッフ紹介 Vol.２

メコン5ヵ国にある、EDF*の各国事業所。そこで働く私たちの大切な仲間であり、皆様からいただいたご支援を、心をこめて子どもたちに届ける現地スタッフを紹介しています。

今回は、EDF-Cambodia（カンボジア事業所）で勤務して2年目のビラックと、EDF-Vietnam（ベトナム事業所）で７年間勤務しているディンを紹介します。

ビラック

私の名前は Morm Virakです。ビラックと呼ばれています。趣味は、リサーチ、アプリの開発、映画鑑賞、旅行です。2019年6月からEDF-Cambodia（カンボジア事業所）で働いています。ホームページを見て問い合わせたことがきっかけで、現在ITプログラマーとして、データベースの管理とアプリの開発を行っています。仕事で貧しい地域を訪れる機会もあるのですが、貧しい方々の生活状況や、その地域の教育の現状をいつも目の当たりにします。子どもたちは勉強することを望んでいますが、家族は勉強させてやることができず、子どもたちは教育を受けるチャンスを失っています。私は、仕事を通して地域社会や国への貢献を実感でき、とても嬉しく思っています。農村地域の人材育成を通して地域社会の発展に寄与でき、それが貧困削減につながるのです。教育支援は、何世代も続く貧困の連鎖を断ち切ることになると私は確信しています。そのような団体の一員として働けることが幸せです。

ディン

私の名前はChau Hong Dinhです。ディンと呼ばれています。2013年からEDF-Vietnam（ベトナム事業所）で、経理とコーディネーターの仕事をさせていただいています。主に、会計業務と奨学生のデータの管理をしています。趣味は、折り紙を折ったり、皮財布を作ったり、物をリメイクすることで、おいしい料理を作ることも好きです。

幼い頃からずっと何不自由なく生活してきましたが、ここで働く中で、気持ちの変化を感じています。ダルニー奨学金の志願者たちのファイルに書かれている境遇を読む時、私の人生がいかに幸せであったかということに気づかされ、今では、この仕事をただ生活のためではなく、もっと意味深いものとして捉え働くことができています。

働き始めた頃は、なぜ縁もゆかりもない国の日本の人々が、他国であるベトナムの見ず知らずの人々を助けることができるのか不思議で、私には理解できませんでした。しかし、それが他者を思いやる心なのだと今では思うことができます。皆様のご支援が、生徒とその家族の今日、明日の生活を、そしてこれからの人生を変える助けになっています。たくさんのNGOが世界中にある中で、EDFを選んでくださり、本当にありがとうございます。私たちスタッフは皆様のその愛を、受けるべき方々に届けるように頑張ります。

タイ奨学生からの
お礼のメッセージ

感染に気をつけながら学校に通っています

コロナ禍のタイでは、地域の感染状況によって休校の判断は学校に委ねられていますが、授業を行っている学校では、感染予防の対策（体温のチェック、マスク着用、手洗い、ソーシャルディスタンスの確保、教室の床掃除など）を実施しています。その様な状況下、通学を続けている4人の奨学生から支援者様にお礼のメッセージが届きました。

ラムパイ・アサワブムさん（13歳、ニックネーム：ポー）

中学1年から3年までの奨学金をもらえることになり、とても嬉しいです。ご支援をいただけるという話を母と兄にしたときには、二人ともとても喜んでくれました。特に母は泣いて「良かった。良かった」と私を抱きしめてくれました。学用品の他にも、奨学金でマスクを買いました。今、学校に行く時に必ずつけなくてはならないのです。新型コロナウイルス感染予防のため、手をきれいに洗うことも先生から指導されています。お金の心配をしなくても、中学を卒業できると思うととても幸せです。一生懸命勉強して、できれば高校に進学し、安定した仕事に就いて、将来は家族を支えたいと思っています。

バーンフアイタープル中学校
（ムックダハン県）

校内で掃除するポー

ラッチャーノン・チャチャワーンさん（13歳、ニックネーム：イッキュ）

奨学金のご支援をしていただいて本当にありがとうございます。このご支援は、授業に必要な学用品を買うために大切に使います。新学期が始まってから、学校では、コロナ感染防止に配慮しながら、授業の他にも奉仕活動として教室や校庭の清掃があり、これらの活動によって中学校で新しい友だちができました。私に中学校に進学する機会を与えて下さり、本当にありがとうございます。これからも、一生懸命勉強します。

授業中（真ん中がイッキュ）

バーンサーンジャオポー中学校
（ナコンラチャシマ県）

ドゥンルタイ・リッチローンさん（13歳、ニックネーム：ミン）

昨年、先生から奨学金をもらえるという知らせをいただいたときは、本当に嬉しかったです。それは私にとって、金銭的な支援はもとより、遠い日本で私を応援してくださる方がいるという大きな励ましです。ご支援をいただいて、自分の将来のために、一生懸命勉強したい、良い大人になって将来は、社会に貢献できる人間になりたいという気持ちになりました。学校の授業が終わった後は、毎日祖母が営む小さなお店で皿洗いやテーブルを拭き、クワイティヤオ（タイの麺料理）をお客様に運ぶお手伝いをしています。学校では、お昼休み中、先生がアイスクリームを売るのを手伝っています。私は、支援いただいた方の想いに応えるためにも、一生懸命勉強し、家のお手伝いもすることを約束します。ご支援者の方も新型コロナウイルス感染症にくれぐれも気を付けてお過ごしください。

バーンノーンノーイペンディントーン中学校
（チャイヤプーム県）

お手伝い中

ナパット・ヤンガームさん（12歳、ニックネーム：カーウィー）

ご支援をいただき、本当にありがとうございます。このような機会に私の気持ちをお伝えできて心から感謝しています。支援していただいたおかげで学用品を買い、安心して学校に通うことができています。現在は、学校で生徒たちが密集しないように、交代で学校に通っています。私は、休み時間に多くの友達と遊ぶことが好きなのですが、今はそれもできないので残念です。ですが、今は、新型コロナウイルスに感染しない、そして、他の人に感染させないために学校のルールを守ります。将来は、警察官になることが夢です。夢を叶えるためにも、今は頑張って勉強します。

朝礼で先生の話を聞く

バーンナームイエン校
（ルーイ県）

新連載

遺贈寄付について
～終活をしよう～

自分らしい人生を送るための準備として、人生の最期を見すえて、身辺を整理する。そんなお手伝いができればと、ダルニー通信では、民際センターの‘遺贈寄付について　終活をしよう’の連載を開始します。第１回目は、‘終活’についてお話しします。

終活って何？

終活とは、いったい何でしょうか。何をすればよいのでしょうか。

終活にはさまざまな形があります。子育てが終わり定年退職を迎えた方ならば、これからの生活をどうやって充実させようかと考えるでしょうし、まだ定年を迎える年齢ではなくても、自分の老後について今から準備をしておきたいと考える方もいるでしょう。また、両親や義父母に、残された時間を有意義に過ごしてもらいたいと思っている方もいるかもしれません。

具体的には、

- 人生を振り返りながら残された家族や友人が困らないよう、個人情報や望みなどを書き記して残すエンディングノートを書く
- ご自身の財産を整理し財産帳を残す
- 遺言書を書いておく

など、すべて終活の一つと呼べるのではないでしょうか。

つまり、死と向き合い、限りある時間を良いものにするため、自分の価値観にそって、自分の資産、財産を管理し、有意義に活用するための活動と言えるでしょう。「終」という字を使うものの、「死ぬ」ではなく「生きる」に焦点を当てるのが終活の目的です。

そうした中、終活の一環として、人生の集大成に、ご自身の財産を社会貢献に役立てたい、生きた証として、未来へ貢献したいという方が増えています。

自分らしく終末を迎えるということは、自らが歩んで築いてきた人生の締めくくりを、自らの意思と納得により決めるということではないでしょうか。皆様の思いを受けとめ、よりよい未来を見出すため、こうした終活のお手伝いをさせていただきます。

民際センターでは、相続財産の寄付、遺言による寄付（遺贈）、信託による寄付を遺贈寄付と呼んでいます。また、財産の生前贈与による寄付も場合によっては、遺贈寄付の一つとしています。

これらの遺贈寄付について、民際センターの遺贈専門委員（弁護士・税理士など）とともにワンストップでお手伝いします。　お気軽にお問い合わせ下さい。まずは、民際センターがご用意する遺贈寄付セットをお送りいたします。

次回は、遺贈や相続についてお話しします。

連載　第二回目

今は昔　民際センター物語

前号から始まった連載　今は昔「民際センター物語」。1987年に創設した日本民際交流センター（現在の民際センター）がタイの中学生を支援することに至ったいきさつをお届けしました。今回は支援開始当初にタイの学校を訪問したときの様子です。

女性教師の悲痛な叫び

支援開始から1年余りが過ぎ、タイから2回目の奨学金証書が日本の支援者に届き始めました。直後から

- 昨年の写真と見比べたところ、同じ生徒の顔だが名前が違う
- 集合写真の中から生徒の顔だけを切り抜いた写真で小さくてよくわからない
- 昨年の年収と今年の年収は10倍違う

など、数え切れないクレームをいただきました。それはそれぞれ、方言の発音と標準語の発音の違い、写真の現像代の節約、農家は年収をそもそも知らないためなど理由があったのですが、この機に現地の状況を知ろうと、タイ事業所のスタッフ、支援者様と共にタイ東北地方ウドンタニ県の各学校の先生を訪ねました。

朝9時から始まる説明会会場に到着。300名ぐらい入る大きな会場に8時50分になっても参加する先生はごくわずか。椅子を片付けて、小規模な会議に変えるように提案したが、「心配いりませんよ。」とプー（タイ事業所スタッフ）の言葉の通り、9時になると先生方が続々と集まり会場は満席に。公務員の制服を着た中年から年配の先生方が集まった光景は実に圧巻でした。説明に立つプーは24歳。本日の会議の趣旨説明と、日本人の参加者の紹介をし、奨学金における生徒の選考方法や書類提出日などの実務的なことを話していると、突然、女性の教師が立ち上がり、「代表の方が日本から来られているので、私たちが日々直面している問題について、聞いてもらいたいのです。少々お時間をいただければ幸いです。」と礼儀正しく、イサーン特有の女性の冷静な声で許しを請うたのです。私は思いがけない要望に耳を傾けることにしました。

先生は悲痛な声で「先週、夜中に、成績も優秀、かわいらしい女生徒が私の宿舎に泣きながらやってきて言うのです。『先生、私は売られて明日早朝、村を出なければなりません。今晩は泊めてください』と。泣きながら『先生、来世、お金持ちの家に生まれて、中学校を卒業したかったです』と一晩中泣いていました。何とか彼女を助けたいと思いましたが、私にはその力がないのです。」と話しました。

先生の発言は、あたかもその日集まった300余名の声を代表しているように思われたのです。タイ東北部の子どもの現状と、それを守ろうとする先生の熱意に触れ、一口のダルニー奨学金が子どもたちの将来を左右する大きさがあることを知り支援の重要性を痛感したのでした。

ダルニー奨学金開始当時の支援者、タイの生徒、先生方
（秋尾理事長：左端黒い服）

1 「マイ・ページ」をご利用ください

「マイ・ページは、支援者様と奨学生、そして民際センターとのコミュニケーションを劇的に向上させるためのツールです。

ご利用いただくことで、今までメールやお電話にて都度ご依頼をいただいていた支援者様の住所、電話番号、領収書発行先などのご登録情報の変更が、ご自身で可能になります。また、年に2回のEDFグループからの郵送物でしか確認することができなかった支援履歴、支援状況表、奨学生写真等を、PC又はスマートフォン、タブレットから確認することができます。未登録の方は是非とも、ご活用ください。

◎ ご登録方法について
www.minsai.org/oshirase/mypage

2 ボランティアさん募集中

民際センターの活動は、多くのボランティアさんに支えられ、随時ボランティアさんを募集しています。

内容は、書類封入、切手整理、データ入力、翻訳、広報資料作成等のボランティア活動があります。

活動場所は、民際センター事務局やご自宅など、活動内容によって異なります。現在、アドビ・イラストレーターを用いて広報資料（チラシやパンフレット）をデザインしていただく方が必要です。基本在宅での作業となります。ご興味のある方は、民際センターまでお問い合わせください。随時、ご相談に応じます。

3 民際センターを紹介してください

皆様のブログ、SNS、ホームページなどで民際センターを紹介してください。ロゴや写真、記事の提供などは事務局へご依頼ください。

4 「支援者の声」を募集しています

皆様の声を民際センターのホームページ「支援者の声(www.minsai.org/activity/voice)」やダルニー通信等でご紹介させてください。ご支援された経緯、奨学生とのエピソード等、文章、動画、何でも結構です。事務局までお寄せください。

事務局 Q & A

Q 忘れずに支援するためには どのような方法がありますか？

A クレジットカードによる寄付にて自動継続による引き落としをご選択ください。

Q 友人が「ダルニー奨学金の寄付を始めてみたい」と言っています。詳しい説明を聞くことができますか？

A お電話やメールでお問い合わせください。また、事前にご連絡をいただけましたら、オンライン会議システムなどにより職員が直接ご説明いたします。

Q 終活を一緒に考えてくれますか？

A 相続による寄付、遺言書の書き方などの遺贈について、ご支援者様のご要望をお聞きしながら、専門家を交え一緒に考えさせていただきます。遺贈寄付のお悩み、ご質問にワンストップでお答えします。是非ご相談ください。

Q コロナが終息した後、支援している奨学生に会いに行くことはできますか？

A 基本的に可能ですが、各国の状況によります。訪問される場合は、必ず事前に民際センターにご連絡ください。現地事業所から各国の政府機関に申請し、許可が必要な場合があります。

Q 民際センターは、メコン5ヵ国を支援していますが、どこの国を支援して良いのかわかりません。どの国が一番支援を必要としていますか？

A 民際センターが支援しているメコン5ヵ国の農村地域などはいずれも貧しく支援を必要としています。毎年の支援状況により国毎に不足の程度が変わりますので、その都度お問い合わせください。もしくは、ご支援の際に「一番支援が必要な国」とご明記ください。

【編集後記】 支援対象国ミャンマーでは、コロナ禍に加えて、2月に軍のクーデターで社会情勢が一変しました。先行きは不透明。『その時の政権がどのように変わろうとも、私たちは民と民が支え合う活動をしているのですよ。』という秋尾理事長の言葉を受けEDF-Myanmar（ミャンマー事業所）と奨学金を必要とする子どもがいる限り、如何なる困難も乗り越え支援を継続していくことを確認しました。このダルニー通信が発行されるころには、子どもたちが元気に学校に通うことができる日常が戻っていることを願ってやみません。(山)

活動をご覧いただけます
- フェイスブック：facebook.com/minsai.org
- ツイッター　：twitter.com/minsaiorg
- インスタグラム：instagram.com/edf_japan

郵便振替でのご支援はこちらからお願いします

ゆうちょ銀行振替口座：00160-7-664928

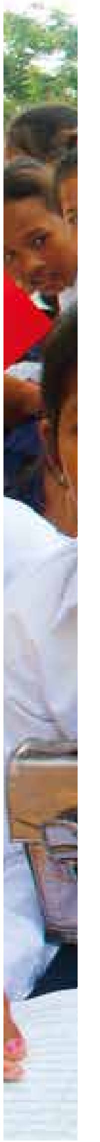
◀表紙の写真 … 読書を楽しむカンボジアの少女たち。

▶「ダルニー」とは … 民際センターが奨学金を募り1対1の教育支援を始めるきっかけとなったタイの女の子の名前。現在、民際センター・タイ事業所の職員として働く、4児の母。

*EDF：Education Development Foundation、民際センターを含む各国事業所の総称名

このダルニー通信は2021年3月に編集されました。

ダルニー通信88号　2021年6月1日発行　発行人：秋尾晃正

公益財団法人　民際センター
〒103-0023 東京都中央区日本橋本町2-6-13 山三ビル7F
TEL：03-6457-5782　FAX：03-6457-5783
Eメール：info@minsai.org　ホームページ：www.minsai.org

公益財団法人
民際センター